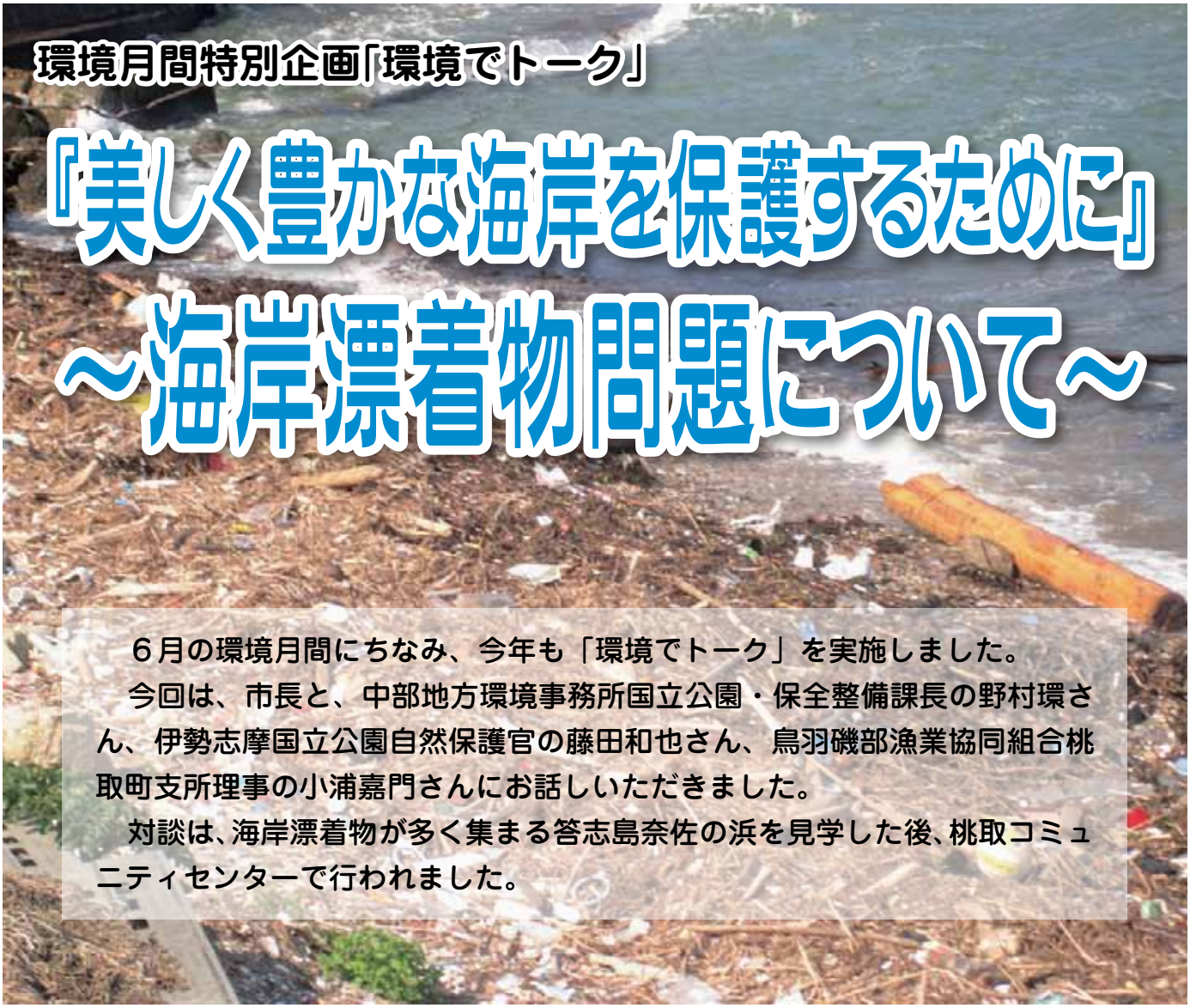


環境月間特別企画「環境でトーク」

『美しく豊かな海岸を保護するために』
～海岸漂着物問題について～

６月の環境月間にちなみ、今年も「環境でトーク」を実施しました。

今回は、市長と、中部地方環境事務所国立公園・保全整備課長の野村環さん、伊勢志摩国立公園自然保護官の藤田和也さん、鳥羽磯部漁業協同組合桃取町支所理事の小浦嘉門さんにお話しいただきました。

対談は、海岸漂着物が多く集まる答志島奈佐の浜を見学した後、桃取コミュニティセンターで行われました。

当日の奈佐の浜の様子

課長　海岸漂着物問題についての考えをお尋ねします。

市長　今の漂着物は質・量ともに大きく変わってきている。質の面では、昔はわらの文化であり、プラスチックなど生態系に影響を及ぼすものがなく、漂着物としては問題にならなかった。また量の面では、山の木をどんどん切って利用していた時代から現在のように日本の木を利用しないという時代に変わっている。

藤田　海のない埼玉県出身で、あまり海岸漂着物というものに意識がなく育ってきた。こちらに来てから海岸漂着物の問題を実体験している。環境省としても重要な問題と認識している。漂着物の問題が良い方向に行くよう力を発揮していきたい。

小浦　県や市が漂着物問題に取り組んでいただいていることに感謝している。ごみ量は増大し、プラスチック系のごみが多くなったが、最近はたくさんの人が協力してくれるようになった。奈佐の浜のごみを100年後にはゼロにするという目標を掲げて動き出したので、協力をお願いしたい。

野村　以前の赴任先である沖縄県石垣島でもマングローブの木の根っこにごみが引っかかるという問題があった。オカヤドカリがプラスチックのごみを殻にして生息していて心が痛んだ。桃取では漁業に被害が出ているということで、地域のためになることをしていきたい。

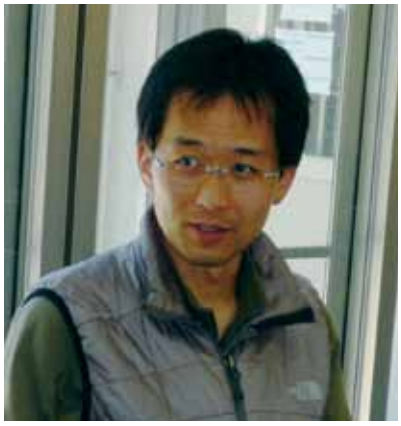
課長　藤田さんに自然保護官として見た「海岸漂着物問題」についてお尋ねします。

藤田　伊勢志摩国立公園の特徴は海である。景観的にも美しく、海産物をはじめ生き物も多い。このすばらしい海に影響を与えている漂着物は重大な問題である。その主な原因は、鳥羽の中ではなく、外からやってくるごみである。ただ、それをプラスに考えて、漂着物の問題は鳥羽と外の人をつなぐきっかけにもなると考えている。いろんな人たちに、漂着物の問題と同時に、鳥羽のすばらしさも伝えていきたい。

進行役を務める細木環境課長

小浦嘉門さん
（鳥羽磯部漁業協同組合桃取町支所理事）

奈佐の浜のごみを100年後にはゼロにしたい



野村　環さん
（中部地方環境事務所国立公園・保全整備課長）

自分が捨てたごみがどうなるかを想像できる人を育てることが大切

課長　小浦さんに、奈佐の浜の海岸漂着物の様子についてお尋ねします。

小浦　漁協の役員を15年しているが、以前と比べて漂着物は多くなった。特に2年に1回のペースで被害がある。今までは、大雨や台風の度に地元のたくさんの人に清掃に協力してもらってきたが、ごみが流れつくと甚大な被害が出る。ごみさえ流れてこなければと思うが、ごみと一緒に豊かな水も流れてきている。カキやのりの養殖のためには、きれいな水と豊かな水が必要である。

課長　次に、木田市長にお願いします。3月に名古屋市で行われた「伊勢湾の海岸漂着ごみを流域のみんなで考える会議」で、三県一市が連携して漂着物対策を進める方針を確認しました。市長として鳥羽の海岸漂着物の実態をどのように感じていますか。

市長　平成16年にここに来た時は、桃取をはじめ、離島のみなさんがごみの処理で大変な目にあっていた。平成21年に海岸漂着物処理推進法が成立し、今回漂着物対策を進める方針が確認されたことに対しては、鈴木三重県知事をはじめ、みなさんに感謝したいと思う。しかし、この推進法ができ、一定枠の支援が得られるということになったが、まだ具体的には実行性が出ていない。みんなで連携していくルールや体制を作っていくべきであると思う。

課長　環境省が平成19・20年度に漂流・漂着ごみに係る国内削減方策モデル調査を行い、県内の6河川の河口部から発信機付き漂流ボトルを放流しました。その結果、漂流・漂着経路は答志島に集中しています。このデータをご覧ください。

藤田　初めて結果（流れ）を見たときはびっくりした。ごみが流れてくるのも、豊かな山の水が答志島に流れてきている証明でもある。だからこそ、答志島周辺の養殖とか漁業が盛んなんだなと感じる。こういうものも上流の人たちにも見せて、上流からの水がちゃんと鳥羽に来ているんだという、つながりを訴えていきたい。

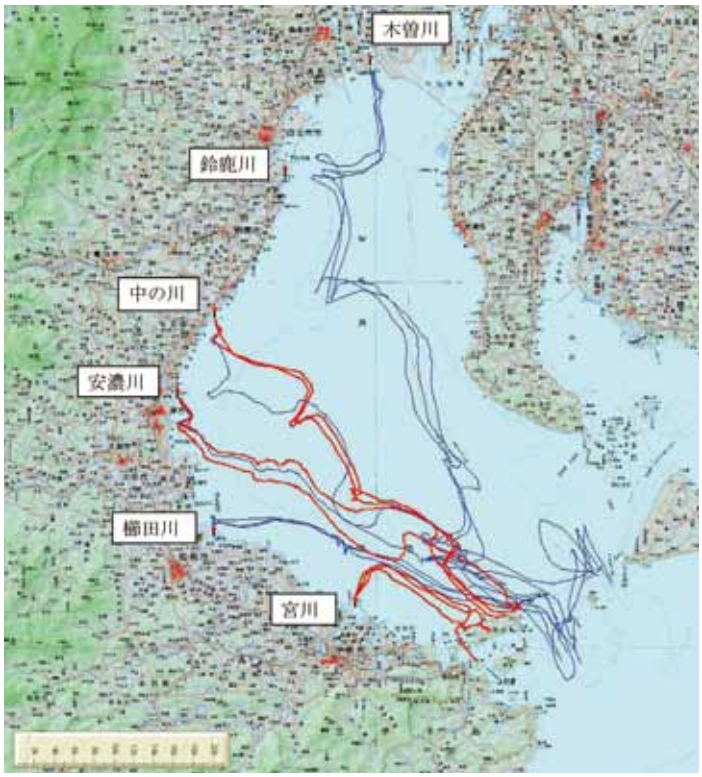
市長　答志島に流れ着くようなこのデータを、三重県、岐阜県、愛知県のみなさんに知ってもらうということも大事である。海岸漂着物の量も、平成21年11月に行われた調査では伊勢湾内で11、000t余りの漂着物があり、5、000tが鳥羽市に流れ着く。その5、000tのうち6割に当たる3、000tが答志島周辺に流れ着くという試算が出ている。新しい法律ができたこともあり、みんなで協力していくことが必要である。

野村　中部地方環境事務所の中には廃棄物・リサイクル対策課があり、この伊勢湾での漂着物ごみ問題に対しても、3県1市の連絡会議に参画している。

藤田　普及啓発の対策は、県をまたがる広域の取り組みなので、環境省としても中部地方環境事務所管内で普及啓発をしていきたい。

課長　潮の流れについてはどう思いますか。

小浦　雨が降ると川から流木



注）赤線は答志島に漂着したボトルの経路、青線は漂着しなかったボトルの経路を示す。

出典：平成19･20年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
地域検討会（三重県）報告書（環境省）

が流れ出し、次の日に西風が吹くと桃取にやってくる。最近は、漂着ごみがくることが予想される場合は、船を出して何時ごろに桃取に着くか調査し、オイルフェンスを張って港に入らないようにしている。

課長　里山の手入れがされていないことから川に流木が流れ出ています。このことについて市長はどう思われますか。

市長　鳥羽のユニークな事業として、ひとつは環境パトロールがあり、週に2回、市内のごみを拾っている。その目的は、観光のためにきれいな町にすることと、海へ流れ出すごみを減らすことである。もうひとつは森と海・きずな事業であり、人工林だけでなく天然林を間伐するもので、光を林の中に入れることによって草や小さい木を生やし、土壌の流出をなくす。それから腐葉土をためることによって、栄養のある水を海に流すとともに、普段、川を流れている水の量を増やす。昔は山の木をどんどん切っていて、その頃は川の水の量は多かったと思う。今は山が覆い茂って日本中が緑豊かに見えるが、木々も水を消費してしまうため、川の水がどんどん減っている。私のふるさとでも昔は川が干上がったことはなかったが、近年は1年のうち3分の1は干上がっているという状況である。そこで、山の木を切ることによって川の水がたくさん流れ、海が良くなるのではないかと森と海・きずな事業をしている。漂着ごみ問題も山の木をどんどん切り整備することにより、良い方向に向かうのではと思う。流れ着いたものを利用することも大事だし、この事業で切った木をどんどん利用していくことも大事である。例えば、岡山県の真庭市では、切った木をチップにして役所の冷暖房に利用している。鳥羽市でも伐採した木を燃料にして暖房に使うなど、新たな自然エネルギーを検討したい。

藤田　自然エネルギーを使っていくことは、いいことだと思う。そうすることによって人の意識が変わってくる。海岸漂着物の問題も結局は、人の意識の問題であり、誰かが捨てたごみが流れ着いていることに問題がある。昔の人が持っていた自然を大切にする心を今の人にも持って欲しい。そのことによって、流れ出てくるごみの量は減ってくると思う。

市長　先日、鳥羽高校の生徒が奈佐の浜を清掃してくれた。そういう活動が広まってほしい。

課長　では、今後の対策について、どうしたらよいと思いますか。

小浦　まずはごみを出さないことが重要である。また、流木は防げるものは防いでほしい。最近はごみが流れてくる情報をもらっているが、このような連携が重要である。とにかくごみを出さないように発生抑制を広げていく必要がある。

藤田　発生抑制対策は3県にまたがる話であり、環境省としても3県と一緒になって話し合いをしていきたい。国立公園の景観保全の立場から、3月に海岸清掃をして約60tのごみを拾ったが、答志島には年間3、000tのごみが流れ着く。拾っていかないとごみはなくならないし、国立公園の景観を守るために清掃していきたい。そして、自然保護官として今の現状を外の人に訴えていきたい。

野村　海岸に流れ着いたごみは、どこかの時点で誰かの手を離れている。自分が捨てたごみがどうなるかを想像できる人を育てることが大切である。人工ごみについては、人が捨てないようにすることが重要である。自然ごみについては、山から木が流れ出てこないように、森づくりをしっかりして強い木を育てることが重要である。大人はこどもの言うことは聞くと思う。子供たちへの教育が大切である。

市長　今後の対策としては、大きく分けて3つあると思う。一つ目は、実際に被害が出るような漂着ごみが流れ着いた場合は、法律に基づき、国・県・市で連携して対応していく必要がある。二つ目は、鳥羽高校の生徒のように、たくさんのかたが実際に海岸清掃を体験し、意識を向上させることが大切である。三つ目は、環境パトロールや森と海・きずな事業などのユニークな事業を全国的に広めていくことが重要である。

藤田　和也さん
（伊勢志摩国立公園自然保護官）

昔の人が持っていた自然を大切にする心を今の人にも持って欲しい

木田　久主一
（鳥羽市長）

環境パトロールや森と海・きずな事業などのユニークな事業を全国的に広めていくことが重要